

第89期

HIRANO TECSEED Co.,Ltd.

# 中間報告書

平成24年4月1日から平成24年9月30日まで



株式会社 ヒラノテクシード

| 証券コード | 6245 |

# 素材を創造させる“塗”

私たちヒラノテクシードは1935年の創業以来、熱と風の技術を追求し、“塗る”技術を融合させ、時代の流れの中で進化する、素材を化学し、高品質並びに高付加価値の製品を生み出す設備を提供する『コーティング装置のトップ企業』として成長してまいりました。

薄型テレビや携帯電話、さらには太陽電池や燃料電池等さまざまな製造現場を支えるのが当社の技術です。

先端技術

コア  
テクノロジー

主力商品

ヒラノグループ

株式会社ヒラノテクシード  
ヒラノ技研工業株式会社  
株式会社ヒラノエンテック  
ヒラノ光音株式会社

FPD用光学機能性フィルム

フラットパネルディスプレイには、さまざまな機能性フィルムが使われています。当社は近年大型薄型テレビで脚光を浴びている液晶並びにPDP用ディスプレイパネルの中核を占める偏光板フィルム、反射防止フィルム、光拡散フィルム、電磁波防止フィルム、保護フィルム等の“機能性フィルム”を生産する精密クリーンコータを製造しております。



ディスプレイの前面板に貼り、画面の表面反射・映り込みを抑え、反射光を低減する反射防止フィルム等

塗  
工  
機  
素材に多様な機能を持たせる

化学物質を素材に塗り、“薄い膜”を形成すると、素材だけでは不可能な多彩な機能を付加できます。

例えば、液晶やプラズマのFPD（フラットパネルディスプレイ）。フィルムに薄い膜をつくり、それを数種類貼り合わせることで、鮮明な画像が生まれます。この“膜をつくり”“貼り合わせる”のが当社の「塗工機」の役割です。



## 目立たないけれど、大切な仕事

“商品”は知っているけれど“どのような”道具で“どのように”つくられているかは、意外と知らないものです。当社では、創業以来培ってきた“熱”と“風”の技術【乾燥技術】に【コーティング技術】【ラミネーティング技術】【制御技術】を融合させ、お客さまに高精度な機械を提供し、数多くの商品の製造において重要な部分を担い社会に貢献してまいりました。

そして今、私たちはエネルギー分野を中心に環境に貢献すべく取組み、

# と“乾”の技術

## フレキシブル基板（FPC）

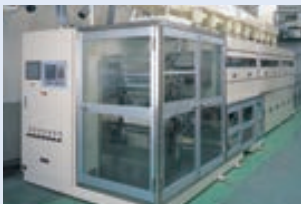
携帯電話に代表されるモバイル端末は近年、薄型・軽量化が急速に進んできました。また、自動車関連でも耐熱性や屈曲性が厳しく要求されます。当社では、これらの分野に使用されるフレキシブル基板の原反となるポリイミドフィルムの成膜装置や、そのフィルムと銅箔などを張り合わせる機械を製造しております。



ポリイミドフィルムに銅箔を張り合わせてできたフレキシブル基板

## 高品質のフィルムを生み出す 薄膜成型装置

液晶・プラズマ・携帯電話などの電子回路のコア部品、フレキシブルプリント基板。この基板の元となる、極めて薄いポリイミドフィルムをつくるのが、当社の「薄膜成型装置」です。フィルムの厚さや品質の均一性が重要となるこの分野で、当社の装置は高い評価を得ております。



また、さまざまな素材の製造プロセスに貢献すべく技術開発を行っております。

「エレクトロニクス」「高分子化学」「包装」「医療」「産業新素材」等、あらゆる分野において“塗る”“貼る”“乾燥する”“成膜する”という技術で当社の機械が係わっております。

目立たないけれど、大切な仕事です。



## 株主の皆さまへ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第89期中（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）の決算を終りましたので、その概況につきましてご報告申し上げます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年12月

取締役社長

三浦日出男

# 事業の概況

Review of Operations

## 事業の経過及び成果

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要等を背景に緩やかな回復の兆しが見られたものの、欧州の債務問題による金融不安や中国をはじめとするアジアの新興国経済の減速懸念、長引く円高、株価の低迷などにより、国内景気の先行きは依然として不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、環境エネルギー分野や電気・電子関連分野の市場に注力し、高精度薄膜塗工装置の拡販に努めてまいりました。

また、受注状況におきましては、厳しい受注環境のもとリチウムイオン電池向けの電極塗工装置や電気・電子関連分野向けの成膜装置が低調に推移する一方、真空薄膜装置が堅調に推移いたしました。

その結果、当中間連結会計期間の売上高は7,193百万円（前年同期比37.9%減）となり、利益面では営業利益は712百万円（前年同期比31.3%増）、経常利益は737百万円（前年同期比32.2%増）、中間純利益は464百万円（前年同期比30.3%増）となりました。

受注残高につきましては、18,830百万円（前期末比40.8%増）となりました。

## 通期の見通し

今後の見通しにつきましては、いまだに金融危機からの回復局面を迎えることができず調整途上にある米国や、債務問題により財政状況が悪化している欧州諸国など、世界の経済の回復には時間を要する状況となっております。また、これらへの輸出が牽引してきたアジア圏の経済においても、経済成長率の鈍化が懸念されます。

国内においては、公共投資や復興関連の需要により景気は緩やかに回復基調になると思われますが、世界経済の状況に加えて、長引く円高による輸出競争力の低下やそれらに伴う内需の減少等、先行きは不透明な状況と予測されます。

このような状況のもと、当社グループは当社独自の特徴を活かした高精度なコーティング装置を市場へ提供すべく、各業界への積極的な営業展開や技術提案を実施してまいります。しかし、下期におきましては既受注分で厳しい案件のものもあり利益率の低下が予想されます。

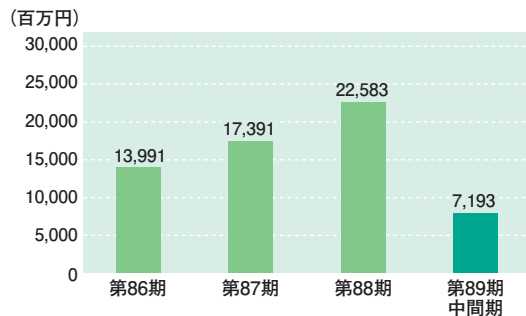
現段階での通期連結売上高は18,500百万円、連結経常利益は1,200百万円、連結当期純利益は730百万円を見込んでおります。



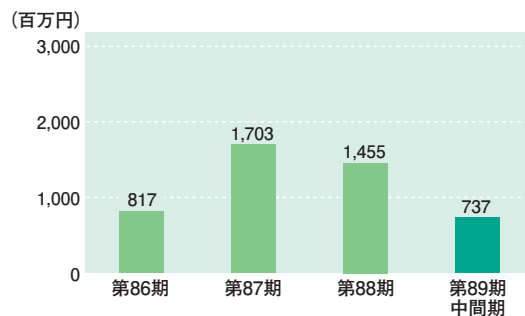
# 業績ハイライト

Financial Highlights

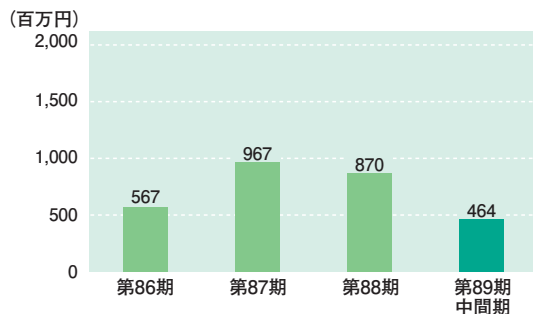
## 連結売上高



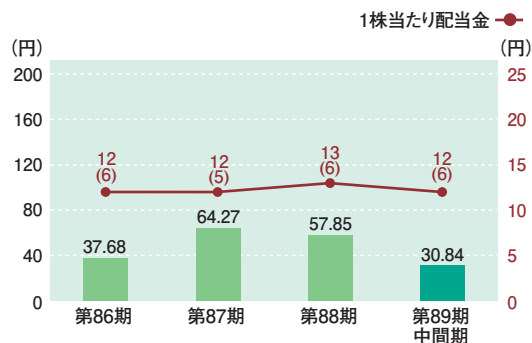
## 連結経常利益



## 連結中間(当期)純利益

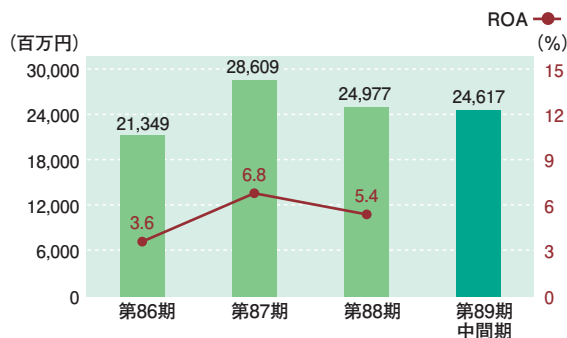


## 連結1株当たり中間(当期)純利益／1株当たり配当金

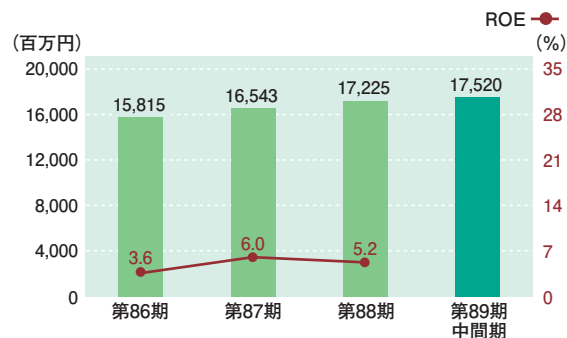


(注) ( ) 内は中間配当を表しております。

## 連結総資産／ROA



## 連結自己資本／ROE



# セグメントの状況

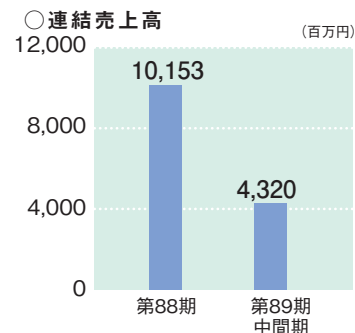
Segment Report

## 塗工機関連機器

各種コーティング、ラミネーティング装置並びにこれらに付随する乾燥・熱処理装置及びライン制御装置



塗工機

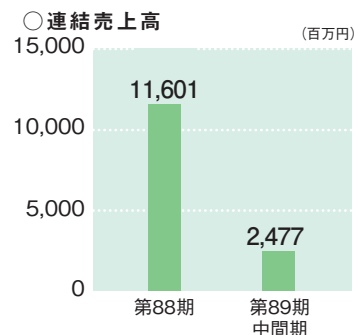


## 化工機関連機器

各種成膜装置、不織布・高機能繊維製造装置、フラットパネル塗布乾燥装置並びにこれらに付随する乾燥・熱処理装置及びライン制御装置

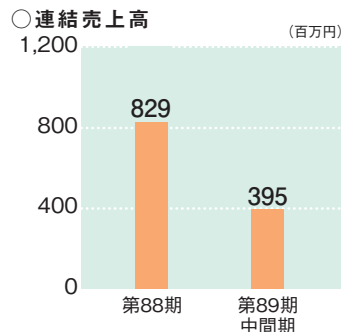


薄膜成型装置

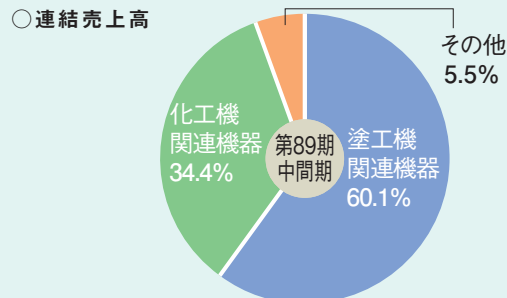


## その他

染色整理機械装置、各種関連機器の部品の製造及び修理・改造等



## セグメント別構成比



## 先端複合材

強度や性能の向上を求めて、材料技術は日々進化し続けています。2種以上の材料を組み合わせ成形したものを複合材といい、中でも炭素繊維複合材は、軽くて強いその特性から幅広く採用されています。特に航空機分野や自動車分野では、燃費を大幅に向上できるなどエネルギー問題にも貢献しております。

この市場でも、ヒラノテクシードの製造設備が活躍しております。

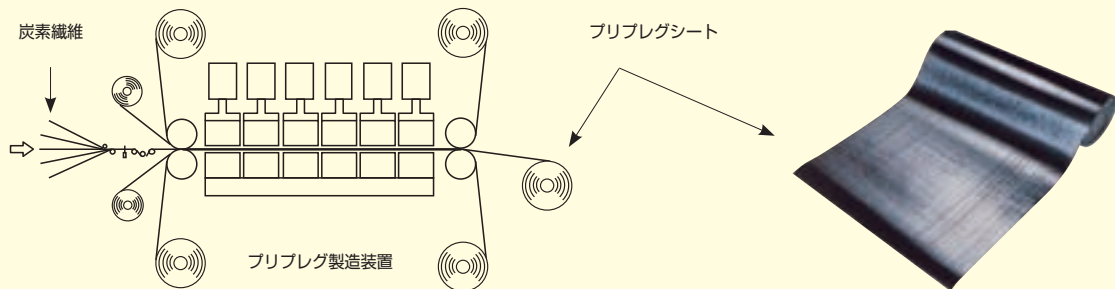
炭素繊維とは、ほとんど炭素原子からなる髪の毛の1/10ほどの直径5～15ミクロン（1ミクロンは1/1000ミリ）の単繊維であり、アクリル樹脂や石炭原料などを繊維化し、高温で加熱処理して出来上がる繊維状の物質です。

炭素繊維は様々な素材に加工され、多様な製品の成形に欠かせない中間素材となります。その中のひとつに『プリプレグ』といわれるものがあります。

プリプレグは樹脂をコーティングしたペーパー又は樹脂フィルムに多数の炭素繊維を引きそろえて押し広げ、その樹脂を含浸（浸み込ませる）させてシート状にしたもので、用途により熱硬化性と熱可塑性があり特徴を活かした分野で活用されております。

ヒラノテクシードでは1987年に熱硬化性プリプレグ製造技術導入し、以来、蓄積された豊富な技術で複合材市場へ高精度なプリプレグ製造装置を提供してまいりました。

昨今では、リサイクルが可能な熱可塑性プリプレグ製造装置を開発し、これで作られたプリプレグシートはその後、切断・賦形（成形）や熱処理など様々な工程を経て航空機、自動車、医療機器、スポーツ用品、精密機器などの各種産業用部材として幅広く活用されております。



# 中間連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

## 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前中間期 (平成23年9月30日現在)	当中間期 (平成24年9月30日現在)	前期 (平成24年3月31日現在)
<b>資産の部</b>	<b>26,647</b>	<b>24,617</b>	<b>24,977</b>
<b>流動資産</b>	<b>22,236</b>	<b>19,712</b>	<b>20,249</b>
固定資産	4,410	4,904	4,727
有形固定資産	2,766	2,862	2,846
無形固定資産	123	172	151
投資その他の資産	1,519	1,869	1,730
<b>資産合計</b>	<b>26,647</b>	<b>24,617</b>	<b>24,977</b>
<b>負債の部</b>	<b>9,914</b>	<b>7,096</b>	<b>7,751</b>
<b>流動負債</b>	<b>8,733</b>	<b>5,754</b>	<b>6,374</b>
固定負債	1,180	1,342	1,377
<b>純資産の部</b>	<b>16,732</b>	<b>17,520</b>	<b>17,225</b>
株主資本	16,683	17,465	17,106
資本金	1,847	1,847	1,847
資本剰余金	1,339	1,339	1,339
<b>利益剰余金</b>	<b>13,902</b>	<b>14,684</b>	<b>14,326</b>
自己株式	△406	△406	△406
その他の包括利益累計額	49	55	118
その他有価証券評価差額金	49	55	118
<b>負債純資産合計</b>	<b>26,647</b>	<b>24,617</b>	<b>24,977</b>

## 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前中間期 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	当中間期 (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	前期 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
売上高	11,584	7,193	22,583
売上原価	10,132	5,648	19,457
<b>売上総利益</b>	<b>1,451</b>	<b>1,544</b>	<b>3,126</b>
販売費及び一般管理費	908	831	1,728
<b>営業利益</b>	<b>542</b>	<b>712</b>	<b>1,397</b>
営業外収益	40	46	74
営業外費用	25	22	16
<b>経常利益</b>	<b>557</b>	<b>737</b>	<b>1,455</b>
特別損失	—	—	1
<b>税金等調整前中間(当期)純利益</b>	<b>557</b>	<b>737</b>	<b>1,453</b>
法人税・住民税及び事業税	191	261	520
法人税等調整額	10	11	63
少数株主損益調整前 中間(当期)純利益	356	464	870
<b>中間(当期)純利益</b>	<b>356</b>	<b>464</b>	<b>870</b>

point  
1

### 流動資産

流動資産は前連結会計年度末に比べ536百万円減少し、19,712百万円となりました。その主な要因は現金及び預金が408百万円、仕掛品が679百万円それぞれ増加し、受取手形及び売掛金が1,464百万円、有価証券が35百万円それぞれ減少したことによります。

point  
2

### 流動負債

流動負債は前連結会計年度末に比べ619百万円減少し、5,754百万円となりました。その主な原因は支払手形及び買掛金が175百万円、1年内返済予定の長期借入金が63百万円それぞれ増加し、前受金が748百万円減少したことによります。

point  
3

### 利益剰余金

中間純利益が464百万円計上されています。



## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前中間期 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	当中間期 (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	前期 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
point 4 営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,090	858	△1,858
point 5 投資活動によるキャッシュ・フロー	3,129	550	1,192
point 6 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 304	△6	△138
現金及び現金同等物の増加額(△は減少)	△ 265	1,402	△804
現金及び現金同等物の期首残高	8,620	7,815	8,620
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	8,354	9,218	7,815

point  
4

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によって得られたキャッシュ・フローは858百万円（前年同期は3,090百万円の支出）となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益が737百万円になったこと及び、売上債権が715百万円減少したこと、また、たな卸資産が714百万円増加したことによります。

point  
5

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によって得られたキャッシュ・フローは550百万円（前年同期比82.4%減）となりました。これは主に、有価証券を取得したことにより895百万円の支出があったこと及び、有価証券を売却したことにより1,796百万円の収入があったことによります。

point  
6

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によって使用されたキャッシュ・フローは6百万円（前年同期比98.0%減）となりました。これは主に、長期運転資金確保のため借入れを320百万円実施する一方、約定弁済を245百万円行ったこと、また、配当金の支払を105百万円行ったことによるものであります。

## 配当のお知らせ

当社グループは、株主各位への配当金は、企業の収益状況により決定するものと考えており、安定的な配当の維持を基本としております。

内部留保資金につきましては、長期的展望に立った新規技術の開発・事業の拡大及び経営体制の効率化・省力化の為の基礎資金として充当し、企業体質と企業競争力の強化に取組んでまいります。

当中間期の利益配当金につきましては、この基本方針に基づき1株当たり6円とさせていただきます。

# 会社の概況

Company Information

(平成24年9月30日現在)

社名	株式会社 ヒラノテクシード
英文社名	HIRANO TECSEED Co.,Ltd.
創業	昭和10年6月1日
設立	昭和24年7月25日
資本金	1,847,821,888円
従業員数	237名
事業所 本社	〒636-0051 奈良県北葛城郡河合町大字川合101番地の1 電話 (0745) 57-0681
東京支店	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-8-16 (千城ビル9F) 電話 (03) 3242-5441
インターネット ホームページ	<a href="http://www.hirano-tec.co.jp/">http://www.hirano-tec.co.jp/</a>

## 役員

取締役社長 (代表取締役)	三浦 日出男
専務取締役	松葉 茂美
常務取締役	馬場 英樹
取締役	定安 一男
取締役	松本 剛
取締役	安居 宗則
常勤監査役	逸崎 正
監査役	高谷 和光
監査役	田中 寛治郎

(注) 監査役高谷和光氏並びに田中寛治郎氏は、社外監査役であります。

## 子会社

ヒラノ技研工業株式会社 (産業用機械器具製造)  
株式会社ヒラノエンテック (繊維機械等部品製造)  
ヒラノ光音株式会社 (真空装置等製造)

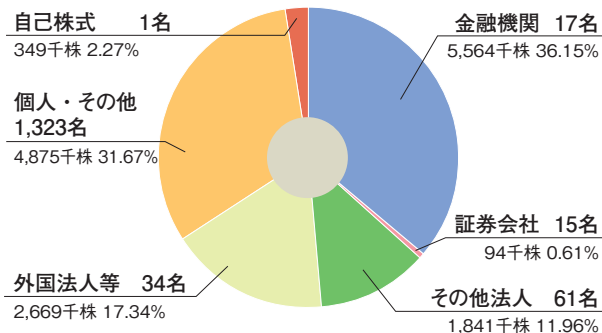
## 株式の状況

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	15,394,379株
株主数	1,451名
大株主	

株主名	当社への出資状況	
	持株数 千株	出資比率 %
明治安田生命保険相互会社	1,450	9.63
ヒラノ会	1,257	8.35
伊藤忠商事株式会社	1,000	6.64
オーエム04エスエスビー クライアントオムニバス	931	6.18
株式会社三菱東京UFJ銀行	737	4.89
株式会社りそな銀行	731	4.85
ザバンクオブニューヨークメロンアズ エージェントビーエヌワイエムエイエス イーエイタッチペンションオムニバス 140016	508	3.38
日本トラスティ・サービス	427	2.83
信託銀行株式会社 (信託口)		
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (信託口)	389	2.58
RBC INVESTOR SERVICES BANK S.A. HSBC INTERNATIONAL SELECT FUND - MULTIALPHA JAPAN EQUITY	356	2.36

(注) 1. 上記の他、自己株式数349,501株を保有しております。  
2. 出資比率は自己株式を控除して計算しております。

## 所有者別株式分布状況



# 株主メモ

Information For Shareholders

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問合せ先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話（通話料無料）：0120-094-777
上場証券取引所	大阪証券取引所 市場第二部
証券コード	6245
公告掲載方法	大阪市において発行する日本経済新聞

※株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。

電話（通話料無料）：

0120-244-479（本店証券代行部）

0120-684-479（大阪証券代行部）

インターネットホームページ：<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

ヒラノテクシード ホームページ

<http://www.hirano-tec.co.jp/>

ホームページで当社の事業活動、商品の案内、投資家情報などに関する詳しい情報をご覧ください。ぜひご活用ください。





この中間報告書は、環境に配慮し、  
植物油インキを使用しております。